

特別展

虎屋のおひなさま



Special Exhibition

Splendid *Hina* Dolls from the Toraya Collection

2020年 2月22日(土) ~ 3月29日(日)

根津美術館 NEZU MUSEUM

3月3日。この日に男女一対の雛人形を飾り、雛節供として祝うようになったのは、江戸時代になってからのことで、江戸の地でいち早く年中行事として行われるようになりました。美しい内裏雛に加えて、江戸時代後期になると、付属する人形や雛道具の種類も徐々に増えました。この往時の華やぎを彷彿させる、質・量共に優れたコレクションが、虎屋の所蔵する雛人形と雛道具です。室町時代後期、16世紀前半に創業したとされる和菓子の老舗である虎屋は、江戸時代を通じて京都で御所の御用を勤めてきましたが、遷都に伴い、明治時代には東京にも店を構えることとなります。14代店主・黒川光景くろかわみつかげ（1871～1957）は、明治30年（1897）に生まれた娘・算子かずこのために雛人形とどのを調え、雛道具を蒐集しました。雛人形は愛らしくも品格漂う京雛。一方で雛道具類の大半は、江戸の贅の一つに数えられた上野池之端ななさわやの七澤屋製で、極小ながらも細部まで美しい細工が施された作品が、漆器を中心に多種多様に揃います。

これら虎屋の雛飾りを根津美術館でご紹介するのは、2006年、2012年に続き3回目となります。初出品となる作品も加え、コレクションの主役である雛道具の種類の豊富さをあらためて実感していただきます。今回は同時に、根津美術館で所蔵する婚礼調度も併せてご紹介します。雛道具の原型とされる婚礼調度とミニチュアの雛道具とを比較しながら、江戸の細密工芸の世界をお楽しみ下さい。

男雛・女雛

京都・丸平大木人形店製 日本・明治時代 19世紀 株式会社虎屋蔵

<http://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZUMUSEUM



虎屋 14 代店主・黒川光景が、明治 30 年に生まれた娘・算子のために調べ、また蒐集した、雛人形と雛道具。特に牡丹唐草模様の調度を中心とした雛道具が充実しており、風俗史上からも貴重なコレクションとなっている。



(パネル展示)

日本・江戸～明治時代 19～20 世紀
株式会社虎屋蔵



明和年間（1764～72）創業の京都の老舗人形店である丸平大木人形店製の雛人形。黒川光景が調べた、明治中期ごろの作品と考えられている。切れ長の目が涼やかな、気品高い面貌の内裏雛一対である。

男雛・女雛
京都・丸平大木人形店製
1 組 木彫彩色
(男雛) 幅 16.5×高 21.8cm
(女雛) 幅 18.0×高 17.5cm
日本・明治時代 19 世紀
株式会社虎屋蔵

牡丹唐草の蒔絵で装飾された雛道具類のひとつで、貝合せの貝を収める桶。貝は蛤の稚貝を用い、内側に一つ一つ異なる絵が描かれている。

ぼたんからくきもんかいおけ
牡丹唐草文具桶
1 対 木胎漆塗
(各) 幅 5.4×高 7.0cm
日本・江戸時代 19 世紀
株式会社虎屋蔵



高級品として名高い、上野池之端にあった七澤屋製の雛道具の牡丹唐草文は、「大」の字に見える五弁の牡丹が特徴である。虎屋のコレクションは、これらを数多く揃えており、主役級の存在感を放つ。



七澤屋製と考えられているミニチュアの台所道具一式。従来確認されていた道具類に加え、新たに発見されたものもあり、総数は併せて約 100 点にのぼる。

台所道具
1 式
(本体) 幅 66.0×奥行 19.0×高 30.2cm
日本・江戸時代 19 世紀
株式会社虎屋蔵

虎屋で所蔵する御所人形ごしよにんぎょうのひとつ。「嶋村」しまむらは、「大江戸料理番付」で最高ランクにあげられる日本橋の仕出しの名店であろう。付属の籠かごには「御雛御用」おんひなごようの文字が見える。

御所人形「嶋村」
1体 木彫彩色
幅 10.4×高 19.0cm
日本・江戸～明治時代 19世紀
株式会社虎屋蔵



黒川光景の時代に制作された雛菓子の見本帳。41点もの色とりどりの美しい雛菓子が器と共に描かれている。

雛菓子見本帳
1冊 紙本彩色
縦 20.0×横 27.5cm
日本・明治時代後期 19～20世紀
株式会社虎屋蔵

根津美術館で所蔵する大名婚礼調度は、全部で37件。すべて松菱の地文けんかたばみに剣酢漿草紋と平四ツ目紋が散らされた意匠で統一されている。

まつびしまきえこんれいちようど ずしだな
松菱時絵婚礼調度のうち厨子棚
幅 108.0×奥行 39.9×高 76.6cm
日本・江戸時代 18～19世紀
根津美術館蔵



展覧会会期中、根津美術館ミュージアムショップにて、虎屋の季節のお菓子を販売いたします。



季節の羊羹ひなごも『雛衣』
1本 1944円（税込価格）
美しい5色が、お雛様のあでやかな装束を思わせます。雛の節句にちなんだ羊羹です。（3月上旬まで）



春パッケージ小形羊羹
『夜の梅』、『おもかげ』、『新緑』
各 260円（税込価格）
（5本、6本、12本入もあり）

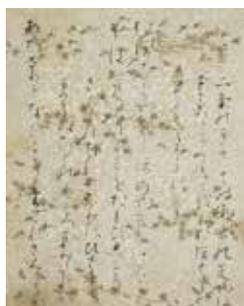
定番の小倉・黒砂糖・抹茶の羊羹を、さまざまな表情の桜を描いたこの時季だけのパッケージでご用意しました。

同時開催展

展示室5

宮廷の雅 古筆切と和歌

平安時代の貴族たちは歌集を美しい紙に書写し、和歌や書の手本、また贈答に用いました。雅な宮廷文化を伝えてくれる、すぐれた和歌と流麗な仮名の美しさをお楽しみください。



おがたぎれ ふじわらのきんとう
尾形切 伝藤原公任筆
1幅 彩箋墨書
日本・平安時代 12世紀
根津美術館蔵

「本願寺本三十六人家集」のうち、「業平集」の断簡。わずかに15葉が現存する。料紙の華やかさと仮名の美しさを兼ね備えた名品である。

展示室6

花時の茶事

花時とは、花の盛りの時季、とりわけ桜の花が咲く春の一時をさします。麗らかな春の訪れを楽しみ季節の茶道具約20件を取り合わせます。



おがわでちやいれ はなぞめ
小川手茶入 銘花染
1口 瀬戸 施釉陶器
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

小川手の瀬戸茶入は幾筋もの釉薬の流れが見どころ。銘「花染」は、紅花で桜色に染めた衣についての古歌（『続古今和歌集』掲載）にちなむ。

関連プログラム

講演会 「虎屋の雛と雛道具」
 (事前申込制) 日時 2020年3月14日(土) 午後2時～3時30分
 講師 林直輝氏(日本人形文化研究所所長)
 会場 根津美術館講堂 定員130名

〈申込方法〉 当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1参加者1イベントにつき1枚)に参加を希望されるイベント名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 「根津美術館講演会係宛」にお送りください。

※2月14日(金)、午前10時より受付開始
 (往復はがきは当日の消印より有効)。
 ※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

スライド 日時 3月6日(金)、20日(金・祝)
 レクチャー いずれも午後2時から45分程度
 (事前申し込み不要) 講師 永田智世(当館学芸員)
 会場 根津美術館講堂 定員各回130名
 担当学芸員が展示の見どころをスライドを用いて解説いたします。
 内容は2回とも同じです。事前申し込み不要。開始の15分前より開場いたします。
 ※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

特別催事 ワークショップ「蒔絵に挑戦！」
 (事前申込制・有料) 日程 2020年2月29日(土)
 虎屋の雛道具を彩る牡丹唐草文の蒔絵の制作を体験してみましょう。作品は当日お持ち帰りできます。

「はじめての茶席一花どきを楽しむ」
 日程 2020年3月19日(木)
 日頃、お茶に馴染みのない方でもお気軽にご参加いただけるお茶会を今春も開催いたします。

※いずれの催事も、後日詳細が決まり次第、当館ウェブサイト、催事チラシにてお知らせします。

開催概要

展覧会名 特別展「虎屋のおひなさま」

主催 根津美術館

開催期間 2020年2月22日(土)～3月29日(日)

開館時間 午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)

休館日 毎週月曜日、2月25日(火)。ただし、2月24日(月・祝)は開館。

入館料 一般 1300円(1100円)
 学生 1000円(800円)
 ※()内は20名以上の団体料金、障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。

前売券 一般 1100円 学生 800円
 ※2020年1月9日(木)～2月11日(火・祝)
 企画展「〈対〉で見る絵画」開催期間中、
 当館ミュージアムショップにて販売

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅
 下車A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレータ)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレータ)より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
 お問い合わせ Tel. 03-3400-2536(代表)
 website <http://www.nezu-muse.or.jp>

記者内覧会 2020年2月21日(金)
 のご案内 午後1時30分～3時(予定)
 ご案内ご希望の方は、当館広報課へご連絡ください。

次回展 特別展「国宝 燕子花図屏風—色彩の誘惑—」 2020年4月18日(土)～5月17日(日) (5/12～17は夜7時まで開館)

「燕子花図屏風」を構成する3つの色、青と緑と金。その歴史的な意味や魅力を、青緑山水や金屏風の伝統、同時代のやきものに探ります。

国宝 燕子花図屏風 尾形光琳筆
 日本・江戸時代 18世紀
 根津美術館蔵



同時開催：
 展示室5 「はじめての古美術鑑賞
 —能装束の技の美—」
 展示室6 「燕子花図屏風の茶会」